

2026年度

国語

(時間……………50分)
(配点……………100点)

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**10**と表示のある問いに対してウと解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 解答を始める前に、解答用紙の座席番号欄に座席番号を記入し、マークしなさい。また、氏名も書きなさい。解答科目欄には国語をマークしなさい(解答科目欄のマークを間違えた場合、0点となるのでよく確かめてマークすること)。

① 次の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

(1) 次の傍線の言葉の意味としてもっとも適切なものをそれぞれ選べ。

- ① 駅に着くと、折しも列車が到着した。**1**
- ア ちょうどその時
イ すぐに
ウ しばらくして
エ 予定どおり

② 考査に関する論文を上梓する。**2**

- ア まとめる
イ 出版する
ウ 調べる
エ 発表する
- ア 自明
イ 普及
ウ 警告
エ 発覚

(2) 「露草」の類義語としてもっとも適切なものを選べ。**3**

(3) 「喧噪」の対義語としてもっとも適切なものを選べ。**4**

- ア 取東
イ 静寂
ウ 和解
エ 隠匿

(4) 「脱帽」と熟語の組み立てが同じものを一つ選べ。**5**

- ア 後退
イ 沈没
ウ 退職
エ 不穩

(5) 次の言葉の意味としてもっとも適切なものを選べ。

- ① 業を煮やす **6**
- ア 他のことに気を取られず一つのことに集中する。
イ どうしたらいいかわからなくてとまどう。
ウ 物事が思いどおりに進まなくて腹を立てる。
エ それまでの努力や苦労がむだになってしまいう。

② 論語読みの論語知らず **7**

- ア □がうまい人ほど物事の本質を理解していない。
イ 書物を読んでいるだけで実践が伴っていない。
ウ 物事を成し遂げるには十分な知識が必要である。
エ 人は学べば学ぶほど自分が無知であることに気づく。

(6) 次の文中における四字熟語の()にあてはまる漢字としてもっとも適切なものを選べ。**8**

朝()暮改を繰り返す。

- ア 令
イ 札
ウ 脇
エ 例

② 次の文章を読んで後の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

一般に世間では「芸術」遊び」というイメージが強いであろう。生業とするにせよ、趣味として嗜むにせよ、あるいは研究対象とするにせよ、実用性を盾に芸術の存在を擁護するのはなかなか難しい。わけても音楽はさうだ。子供がミュージシャンになると言い出したら多くの親は心配するだろう。働き盛りの年齢で余暇にピアノを習い始めたら、「高尚な趣味をお持ちですね」といってはもらえないかもしれないが、いくぶんアイロニーが含まれている可能性は高い。まして私のように音楽の「研究」を生業としている者には、絶えず「音楽なんて研究対象になるんですか」というあけすけな質問に身構えていなくてはならない。美術や文学であれば、いくらなんでも「研究の対象なんかになるのか」とまでいわれればいいことはない。ところが、経験則として音楽研究は違う。一般常識では音楽は嗜好品ないし教養が関の山であり、知的探求の対象とはあまり思われていない。

確かに音楽は「不要不急」である。音楽がなくとも、とりあえず日常生活に支障をきたすことはない。音楽の有用性についての決まり文句は「豊かな心の涵養」や「人を励ます力」や「癒し」等であるが、いずれにせよ音楽は平時の生活のお飾りであり、いざ何か起れば真っ先に切られる活動領域であることは、コロナ禍中における世界的なコンサート活動のシミュレがあらさまで示した通りである。

音楽が人生のお飾りではなく、「生きること」とのつきまならない結びつきをもっているとするれば、つまり広い意味での現世利益をもたらしているとするれば、それは「音楽は社会の気配を読み取るセンサー」を敏感にしてく

(7) 次の四字熟語とその意味の組み合わせのうち、適切でないものを選べ。**9**

- ア 切膚之論 ―― ひどく腹を立てたり悔しがったりする。
イ 牽強附会 ―― 自分の意見がなく、他人に同調する。
ウ 傍若無人 ―― 人目をばからず勝手気ままにふるまう。
エ 茫然自失 ―― あっけにとられて我を忘れてしまいう。

(8) 次の文中における傍線の「だ」と同じ意味・用法の「だ」を一つ選べ。**10**

私がずっと探していたのがそれだ。

- ア 集合時間に少し遅れてしまいうだ。
イ 仕事を手伝ってほしいと友達に頼んだ。
ウ 「誰もいないようだ」と彼は言った。
エ あの赤い大きなバッグが私のだと思う。

れる」という点に及ぶと、私は思っている。人には「見ているのを見えていない」ということがある。いわゆる正常化バイアスだ。人は見たいものしか見ない。見えてはいるはずだと予めわかってはいるものしか見ない。私が「気配を読み取るセンサー」と呼んだのは、こうした「見ているのに見えていない」というべきであらう。

一般に芸術(とりわけ音楽)は「自己表現」だと錯覚されている。この誤解が芸術の真の実用性を見えなくしてしまう。

相手が今どう反応しようとしているか、客が何を期待しているか、自分がここでこう出れば相手はどう出てるか等々。気配への勘なくして音楽はありえない。私にいわせれば、音楽に打ち込むとは、「気配を読む」の修業である。

文学や美術に比べて音楽が無用だと思われがたとすれば、大きな理由はその非表象性にあるのだと思う。歌詞がついていたりしても、音楽が歌詞内容を「表現」していると考えるのは素朴すぎる。音楽とは本質的に表象しない芸術である。だから「何を表現しているのかわからない」中身わからない中身がないに役に立たない「快楽にしてくれるだけだ」ということにもなる。しかしまさに非表象性にこそ、音楽の究極的な象徴性はあると私は考える。

音楽は「一種の暗号」。何も表象していないように見せかけて、隠れたメッセージを忍び込ませることが出来る。例えばソビエトの作曲家ショスタコーヴィチの作品は、こうした二重言語の典型だった。体制に対する「i」が、直接の表象をしない音楽だからこそ、可能になる。体制を美しているように見せかけて、裏で舌を出してみせるということができる。

指定校制推薦入学制度
総合型選抜入試

公募制推薦入試【前期】
【併願制】

国語

公募制推薦入試【後期】
【専願制】

一般入試【第1期】

一般入試【第2期】

しかしこうした場合、作曲者個人の本音が純粋に個人的なものにとどまっているケースは、むしろ少なからず、作曲を通じた他者との連帯の潜在願望が無い芸術家など音無のほうである。特に音楽はそうだ。演奏で聴ける人々、そして聴いてくれる人々がいて初めて、音楽は成立する。作曲家は他者の共感と想定しつつ作品を書く。上のシヨタコウツィにしては、その作品で暗示されている「本音」は、当時の社会の本音であったと考へるべきだろう。

しかも「本音」が常に「真」であるとは限らない。芸術ではむしろ、當事者も意識していない願望や恐怖や自明や予感、あからさまな形で現れてくるものが多い。「例として、いわゆる「癒し音楽」のことを考えてみる。いうまでもなく現代社会は「癒し」が大好きだ。そして「癒し」されるもの「癒し音楽」といって、ベトナム音楽ということになるであろう。ネットで「癒し音楽」で検索すると、途方もない数の動画が出てくる。「睡眠用BGM」が休まる音の癒し」「自律神経に優しい音楽」「作業用BGM」癒し効果絶大！」等々。これらの音楽的特徴といえは、ヴァイブレーションを多用したシンセサイザー系のビビリチュアルで静かなサウンドがゆったりしたテンポで、いつまでも平坦に続いていくことである。こういう様式の音楽はいつの間にか登場してきたのか？

——こう問うことは、一人はいつか疲れたか、癒しを求め始めたか、と問うこと、ほぼ同義である。

まず確認しておくべきは、近代音楽に「癒し系」はほぼ皆無ということである。この場合の近代とはおよそ十九世紀から二十世紀である。この時代の音楽はのきなみ「盛り上がる」。この原則を作ったのがベトナムンだ。彼以前の音楽、例えば十八世紀前半のバウハにしても後半のハ

ジックは、決して熱くならず、ずっと同じ状態が続く。そこに今日のSDGs的な社会モデルが無意識のうちに先取りされていたと考へることは許されるであろう。

音楽はあらゆる概念性から自由であるだけでなく、音という非物質的なマテリアルをマテリアルとして用いる不思議な芸術である。そのせいで音楽という芸術には、どこになくまやかした印象がつかまい。

「x」カントは音楽を狭義の「芸術」とは認めず、ヘーゲルは芸術ジャンルのヒエラルキーの中で音楽にあまり高い地位を与えなかった。しかしながら哲学者のアドルノは逆に、非概念性・非物質性のゆえにこそ音楽は現実を撃つことが出来るを考へた。現実世界の現実的な拘束を超越することなく、未来の理想社会のモデルを構想することが出来ること主張したのである。

（中略）

十九世紀初頭においてベトナムンは、未来の社会モデルを音楽によって打ち立てることに成功した。それは熱い社会の理想だった。がんばれば必ず輝かぬ未来が待っているを鼓舞する音楽。人間に不可能事はないと確信させようとする音楽であった。そして二十世紀に入ってから、交響曲第五番「運命」や第九番「合唱」が人々を感動させる力をもつており、それはベートーヴェン作品の普遍不滅の証明であるとも思える。社会を愛していくには、まず音楽（芸術）の中で未来モデルを考へていく必要がある。一九七〇年代のミニマル・ミュージックやアンビエ

イドンやモツァルトにしても、「熱く盛り上がる」ことはほとんどない。淡々と時間を経過していく。それは対してベトナムンの音楽は、時に驚き手をハラハラさせ、焦らし、煽り、クライマックスへ向けてどんどん高揚する。交響曲第五番「運命」や第九番「合唱」は典型である。

ベトナムンが十九世紀はじめのナポレオンの時代に活躍したことは、偶然ではないと思う。フランス革命が起きて市民社会が胎動し始めた。産業革命が資本主義を離陸させようとしていた時代。世界の未来を輝いていたであろう。ベトナムンが「熱く盛り上がる」「交響曲を書いたのは、まさにこの時代においてであった。それは右肩上がりの成長の時代の音楽であった。以後の音楽は、二十世紀後半のロック・コンサートに至るまで、「熱く盛り上がる」ことを最重要の構成原理としてきた」として過言ではない。

癒し系の音楽の原形が、モダンの「盛り上がる」音楽に対するアンチとして出てきたのは、一九七〇年前後からである。ステイヴ・ライヒやチャリー・ライリーのミニマル・ミュージック、そして何よりブライアン・イノーのフジエント・ミュージックがその代表だ。彼らの作品は同じような音型が小さな音重なりと続く。入眠向きといえるかもしれない。坂本龍一や久石譲もミニマル・ミュージックの影響を強く受けている。

ミニマル・ミュージックやアンビエント・ミュージックが脚光を浴びる一九七〇年代は、いわゆる石油エネルギーの限界が喫緊の人類課題となり、「宇宙船地球」が人々の口の上り、思想界ではポストモダンが喧伝され、環境保護運動がさかんに始まる時代だった。偶然の「つ」ではなから。ベトナムンの音楽は「モダン」だった。ほとんど熱くなる右肩上がりの社会理想のシンボルだった。それに対してミニマル・ミュージ

ト・ミュージックは、その可能性のひとつを提示していた。であれば、私たちが（それがベトナムンであれロック・コンサートであれ）も考へられる。

B S D G s 的な理想は現実へと踏み出し始めることも考へられる。

芸術は社会的な事件を引き起こすか、事後に、その影響を受けて変化すると、私たちが考へがちなことである。しかし芸術の歴史を見ると、しばしば逆のケースがあることに気づかされる。現実には何か起きるより先に、芸術の中でそれが先取りし予感されているような場合である。例えば第一次世界大戦直前の音楽は典型である。

大戦勃発に先立つ一九一〇年前後は、一般職業にとつて到底受け入れがたい種類の音楽（もはや「音楽」とは思えない音楽）が善がけようになり始めた時期である。リヒャルト・シュトラウスの「ワグネル」、シエーナ・ベルクの無調作品の数々、騒音こそ未来の音楽だと主張する未来派のルツノ、そして何より初演が大スクリーンとなったストラウヴン・スキューの「祭の祭典」。これらは平和を謳歌するヨーロッパ・ブルジョワ社会へのいわば七んぞん布告であり、娯楽としての音楽を全面的に断念し、奇怪な不協和音によって世界の不条理を突きつけようとするものだったといえる。そして間近に迫っていた世界のカタストロフの予感でもあった。

一九一四年の第一次世界大戦の勃発を多く人は、「まさか……」と「やはり……」とがなやまざらなくなった感覚で受け止めたようである。オーストリアの作家シュテファン・ツヴァイクは自伝「昨日の世界」(原田義人訳、みすず書房、一九九五年)の中で、戦争が起る前の時代を次のように回想している。「十九世紀の人々は、その自由主義的観念論において、『あらゆる世界のうちの最良の世界』に向かい、まっすぐ間違いない道を歩

んでいるのだ、とまじめに信じていた。人は軽蔑を持って、戦争や飢饉や革命のあつた昔の時代を見下すのだった。人間がまだ未成のままで十分

に啓蒙されていなかった時代として見下したのである。ツヴァイクによれば人々は聖書より進歩を信じていた。」「人類の技術的進歩は同じように急速な道徳的向上を無条件にもたらすと信じたその楽天的な幻覚（昨日の世界）」は、やがて粉々に破壊される。

それでも火気があれば一気で大爆発に至るガスがジューマンしていた大戦前のヨーロッパ社会の気分を、ツヴァイクは次のように回想している。

「屋根裏には、眼に見えぬ塵埃があつて、何か電気のばちばちする音が聞こえ、いつでも火花が飛び散つていた。——ツヴァイク事件、アルバニアにおける危機、不首尾な会見、いつでもたまたひとつの火花にすぎなかつたが、しかしどれもがちくちくせきされた火薬を爆発させるかもしれないことだ。

このくだりを読むにつけ、芸術家とはいわば沈没船のネズミのようなものかもしれないと思ふ。大半の人が「見ているにもかかわらず見えていないもの」に「見ているのに見えないこと」にしているもの。「見たくないもの」に対して、鋭敏な芸術家たちははやく動物的に反応する。とりわけ諸芸術の中で最も抽象的な音楽はなんでも表現できる。表象作用がないから好きなことが出来る。すくなくとも呪術的な芸術だともいえる。

(岡田義生「音楽論は文明論たりうるか——般業の実用性について考へる」(石井洋二郎・鈴木順子編「ペラルアーツと芸術」)所収)による。

(1) 二重傍線部①⑤のカタカナの部分を選択し直したとき、その漢字と同じ漢字を用いるものをそれぞれ一つずつ選べ。

① [ビジュク] 11

ア 式典がけんじゅくに行われる。
イ 運動部ががっしゅくに参加する。
ウ 開会式でしゅくじを述べる。
エ 開発計画をしゅくしようする。

② [フウ] 12

ア 山間部の学校にフにんする。
イ 有名人のフにんに接する。
ウ 新たな感覚がフじようする。
エ 長年の対立に終止フが打たれる。

③ [センせん] 13

ア 薬草をセンして飲む。
イ 目標達成をセンげんする。
ウ 消火センを設置する。
エ 市場セリゆう率を調査する。

④ [ジウまん] 14

ア 筆にはくじウにつける。
イ 福利厚生をかくじウにする。
ウ くじウの決断をする。
エ ベッドタウンにきじウする。

⑤ [ちくせき] 15

ア 過去のじくせきを認められる。
イ せき料のレジを見る。
ウ 工事の費用をせきんする。
エ じくせきの念に駆られる。

(注) S D G s … Sustainable Development Goalsの略。貧困・不平等・格差などをさまざまな問題を解決し、持続可能な世界を作るための具体的な目標のこと。

(2) 本文中の「A」に入れるのにもっとも適切なものを選び、16

ア 芸術における自己表現とは、「自己と他者との対話」である
 イ 音楽とその他の芸術の大きな違いは、「気配の有無」である
 ウ 実用的な音楽に不可欠なのは、「鋭い勘を持つ相手」である
 エ 芸術の中でもとりわけ音楽は、「気配を感じ取る手段」である

(3) 傍線部aについて、音楽について筆者がこのように言っているのはなぜか、その理由としてもっとも適切なものを選び、17

ア 文学や美術はそれが何を表現しているのかが誰にもすぐわかるため、作品の中に作者の本音を忍び込ませることはできないが、表現をしない芸術である音楽は、その中に作者の本音を隠れたメッセージとして忍び込ませても、それが他者に知られてしまうことがないから。
 イ 文学や美術よりも優れた「究極の表象性」があるにもかかわらず、一般には表象をしない芸術であると考えられてきた音楽は、ソ連でのショスタコーヴィチの体制批判のように、公には知られたい個人的人的な本音を表現する手段として広く利用されてきたから。
 ウ 音楽という芸術は、文学や美術などとは違ってはつきりとした特徴を利用して直接表現することができないような本音その中に忍び込ませ、社会的なメッセージとして伝えることができるから。
 エ 音楽の作曲家は何かを表現していないように見せかけて作品の中にさまざまなメッセージを忍び込ませているが、それを理解できるのは演奏者や聴衆など一部の人間だけであって、多くの人々にとってはその真意がわからない不可解な言葉しか感じられないから。

(4) 本文中の「i」「ii」に入る語句の組み合わせとして、もっとも適切なものを選び、18

ア 阿諛追従 自覚的
 イ 面従腹背 批判的
 ウ 阿諛追従 批判的
 エ 面従腹背 自覚的

(5) 傍線部bについて、「癒し音楽」の特徴についての説明として、もっとも適切なものを選び、19

ア 「癒し音楽」は近代ではほとんど見られなかったタイプの音楽で、一九七〇年前後、それまで活発に活動してきた人類がさまざまな問題に直面し、従来とは違った生き方を迫られるようになった時代に広まっていったものであった。
 イ 「癒し音楽」は、パッパやハイドゥン、ベートーヴェンなどによって作られた「熱く盛り上がる」音楽とは対照的に、決して熱くなることはなく、同じような状態が淡々と続いているのを特徴とする。それまでの音楽にはほとんど見られなかった新しいタイプの音楽であった。
 ウ 「癒し音楽」は、一九七〇年代以降「宇宙船地球号」などを合言葉として世界各地でさかんになり始めた環境保護運動とともに、「熱く盛り上がる」生き方をしようとし始めた人々によって脚光を浴びた音楽であった。
 エ 「癒し音楽」は、近代の音楽とは違って「熱く盛り上がる」ことがほとんどない音楽で、それまでの近代的な社会モデルが限界を迎え、世の中がそれまでとは全く違った社会モデルへと移行すると、そうした社会の変化に合わせて生まれてきたものであった。

(6) 傍線部cについて、この時代にベートーヴェンの音楽はどのような役割を果たしていたのか、その説明としてもっとも適切なものを選び、20

ア 十九世紀はじめは、フランス革命や産業革命によって社会は大きく変化した。そうした社会の大きな変化やその後の右肩上がりの成長は、ベートーヴェンの「熱く盛り上がる」音楽やベートーヴェンが打ち立てた未来の社会モデルによってもたらされたものであった。
 イ 十九世紀はじめは社会で右肩上がりの成長が始まった時代であったが、そうした時代の中でベートーヴェンの音楽は理想的な未来の社会のあり方を示し、人々を輝かしい未来へ導いていくこととするものであった。
 ウ 十九世紀はじめは、フランス革命や産業革命などによって社会が大きく変化した時代であったが、ベートーヴェンの音楽はそうした変化に懐疑的であった当時の多くの人々に対して右肩上がりの成長がもたらす輝かしい未来を約束するものであった。
 エ 十九世紀はじめは市民社会や資本主義のような新しい社会モデルが誕生した時代であったが、ベートーヴェンの音楽は、そうした変化に懐疑的であった当時の多くの人々に対して右肩上がりの成長がもたらす輝かしい未来を約束するものであった。

(7) 傍線部dの意味として、もっとも適切なものを選び、21

ア 突然現れた
 イ 簡単に解決できない
 ウ 差し迫って重要な
 エ 急速に拡大してきた

(8) 本文中の「x」「y」「z」に入る語句の組み合わせとして、もっとも適切なものを選び、22

ア だからこそ しかし しかしながら
 イ だがしかし しかし それゆえ
 ウ だからこそ つまり それゆえ
 エ だがしかし つまり しかしながら

(9) 本文中の「B」に入れるのにもっとも適切なものを選び、23

ア 「盛り上がる音楽」を聴いても何の反応もしなくなったときに初めて
 イ 「盛り上がる音楽」が大きく変化していることに気づいたときに初めて
 ウ 「盛り上がる音楽」とそうでない音楽の違いがわかるようになって初めて
 エ 「盛り上がる音楽」の歴史的な価値を理解できるようになって初めて

(10) 傍線部eについて、筆者はこのような音楽が書かれるようになったのはなぜかと考えているか、その理由としてもっとも適切なものを選び、24

ア リヒャルト・シュトラウスなどの音楽家たちは、「無伴奏」とも言える世界の状況に危機感を募らせ、そうした状況を音楽の力で変えなければならぬと思っていたから。
 イ 「音楽」とも思えないような音楽を書いた音楽家たちは、当時の世界が極めて危険な状態にあり、カタストロフが間近に迫っていることを鋭く感じ取っていたから。
 ウ まもなく世界的な大戦が勃発することを察知した音楽家たちは、世界が極めて危険な状態にあるというメッセージをショスタコーヴィチのように音楽の中に忍び込ませ、世界の人々に平和を謳歌するよう音楽を書いたから。
 エ 第二次世界大戦直前の混乱した社会状況の中で娯楽としての音楽を書くことに限界を感じ、世界の不条理にうちひしがれていたから。

指定校制推薦入学制度
総合型選抜入試

公募制推薦入試【前期】
併願制

国語

公募制推薦入試【後期】
専願制

一般入試【第1期】

一般入試【第2期】

(1) 本文の内容に合致するものを一つ選べ。 [25]

ア 音楽という芸術はベートーヴェンの音楽のように社会全体を熱く盛り上げたり、ミニマル・ミュージックのように人々を癒したりするなど、社会にさまざまな利益をもたらしてきた。それにもかかわらず音楽は非実用的で遊びのようなものだと誤解されているのは、音楽が非表象的でわかりにくいうえ、世の中の人々が音楽家のような感受性を持っていないことが大きな要因になっていると思われる。

イ 一般に世間では音楽は非実用的なものだとされているが、これは音楽という芸術が本質的に実用的ではないといったことではなく、バッハやモーツァルトのような過去の多くの音楽家たちが音楽を実用的なものにしようとしてこなかったためである。したがって、社会を熱く盛り上げようとしたベートーヴェンのように、音楽家ははっきりとした目的意識を持っていれば、音楽を実用的なものとするのが可能である。

ウ 音楽は、本質的には表象しない芸術であり、何を表現しているかわからないがゆえに、役に立たない、快適にしてくれないだけのもの、実用性がないものと思われがちであるが、例えば第一次世界大戦の直前、感受性の鋭い音楽家たちは社会の気配をいち早く感じ取り、それを人々に伝えるような音楽を突きつけた。芸術作品は、社会的な事件が起きた後、その影響を受けて制作されたと解釈されがちであるが、実際には社会変化を先取りしたような作品が多々あるのである。

エ 一般に言われているように音楽というのは世間の人々を快

適にする音楽の一種に過ぎず、文学や美術など他の芸術と比べて実用性がないことは確かである。しかし、カントやヘーゲルらが指摘するように、音楽を非現実的な「芸術」という枠組みから切り離し、現実世界に目を向けるようにしていけば、音楽は実用的なものに変化していくと考えられる。

2025年11月15日実施

2026年度

国語

(時間……………50分)
(配点……………100点)

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10と表示のある問いに対してウと解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄のウにマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ

- 解答を始める前に、解答用紙の座席番号欄に座席番号を記入し、マークしなさい。また、氏名も書きなさい。解答科目欄には国語をマークしなさい(解答科目欄のマークを間違えた場合、0点となるのでよく確かめてマークすること)。

1 次の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

(1) 次の傍線部の言葉の意味としてもっとも適切なものをそれぞれ選べ。

- ① そのうわさはつとに有名である。 [1]
- ア とても
イ なぜか
ウ ずっと以前から
エ 間違いなく

② 友人は私たちのことを放逐した。 [2]

- ア 無視した
イ 歓迎した
ウ ばかにした
エ 追い払った

(2) 「刹那」の類義語としてもっとも適切なものを選べ。 [3]

- ア 片時
イ 孤立
ウ 悲哀
エ 不滅

(3) 「粗野」の対義語としてもっとも適切なものを選べ。 [4]

- ア 丁寧
イ 洗練
ウ 武骨
エ 華美

(4) 「添削」と熟語の組み立てが同じものをも一つ選べ。 [5]

- ア 深紅
イ 継承
ウ 栄枯
エ 柔軟

※国語(11月14日実施)の問題は、30ページから始まります。

- (5) 次の言葉の意味としてもっとも適切なものを選びなさい。
- ① 辨に落ちない **6**
- ア ぼんやりとしてつかみどころがない。
- イ 物事に納得することができない。
- ウ 期待したような結果が得られない。
- エ 物事がいつまでたっても終わらない。

- ② いずれも漢語か和語か
- ア 考え方や好みは人によってさまざまである。
- イ 焦らずに待つていればやがて好機が訪れる。
- ウ どちらにも優れていて優劣をつけるのが難しい。
- エ は努力しただけで幸福にも不幸にもなり得る。

- (6) 次の文中における四字熟語の()にあてはまる漢字としてもっとも適切なものを選びなさい。

彼は物事の()業末節にこだわりすぎる。

- ア 子
- イ 始
- ウ 枝
- エ 思

- (2) 次の文章を読んで後の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

ひとくちに子どもの文学といっても、幼い子どもたちのために作られる絵本からはじまって、近年ではヤングアダルト向けと呼ばれている青年層を説くとする品にいたるまでが慣習として含まれています。年齢の幅が広く、ひとくりにして論ずることは、トクして不可能なほうでもありません。しかし、想定される読者の年齢は様々であっても、共通しているのは、フィクションとしての「物語」が中心であることです。そのため、事象ではないことを事実らしく見せるもの、従って時には捏造されたもの受け取られてしまうことがあります。しかし、文用語として、架空の出来事を想像力や空想力を使って書いた散文の物語である、一般的には認識されています。

エイキンは、この世界の「謎」をときめかす手立として、人間は「物語」を作ってきたのだと指摘しています。

物語はひまわりのために使われる種の断片であつてはなりません。人類誕生のはじめから、物語は祭司、詩人、預言者、医者たちによって、人をいやし、教える魔法の道具として、さらには解決不可能な問題を、耐えがたい現実にならず直視しなくてはならないという事象を折り合いをつけることを助ける方法として用いられてきました。

(子どもの本の書きかた)

- (7) 次の四字熟語とその意味の組み合わせのうち、適切でないものを選びなさい。
- ⑨
- ア 青息吐息 —— 苦しみだり困りたりしている様子。
- イ 眼光紙背 —— 読解力や洞察力が非常に高い。
- ウ 酔生夢死 —— 価値のあることをせずに一生を過ごす。
- エ 理非曲直 —— 物事を都合のいいように解釈する。

ふるさどで静かに余生を送る。

- ア 今から急いだところ「間に合わない」。
- イ この洋服はデパートで買ったものだ。
- ウ インターネット「今日の天気をお調べ」。
- エ 彼女は思っていたより元気を「う」安んじた。

物語にはこのように、生きるために欠くことができない大切な役割があります。神話、伝説、昔話などの伝承からはじまって、現在にいたるまで人間が絶えず物語を作ってきたのはそのためでした。そして物語を作るのは作家だけではなく、人間は大人であらうと、子どもであらうと、作家のように上手でできないにせよ、物語を作りながら暮らしを生きていくことは、(エ)トクして探し「物語探」といっています。

ここで考えてみなくてはならないのは、大昔から人間がどのような物語を作ってきたか、ということでしょう。様々な文化のなかで作られ伝えられてきた神話、昔話、伝説などのいわゆる伝承文学と呼ばれる物語です。神話は世界がどのように創造されたか、創造された世界はどのようなものであったか、その世界にはどのような神々があったか、彼らにはそれぞれどのような特徴があるか、神々と人間とはどのような関係をもっていたかなどを語ります。それは遠い昔に起こった出来事を真実として語る物語で

どの文化のなかにも神話は存在しますが、なかでもよく知られているのはギリシア神話です。とりわけ近代になってフロイトが精神分析という人間の心の内部を探る方法を確立したとき、彼はギリシア神話を用いたことはよく知られています。有名なエディプスコンプレックス、男の子が無意識のうちに、母親を愛し、同性である父親を憎むことから発生する複雑な感情は、父を殺し、母を妻としたテバイ王のエディプスの物語から発想されたものでした。x 水面に映る自分の美しい姿に見惚れて恋してしまった美少年ナルキッソスが、思いをこぼれず死んでしまったら水仙

の花が咲いたという神話は、ナルシズム「自己陶醉」のガイネンとなったものでした。昔に言葉の起源を知ったとき、私は少年の死と水仙の花との結びつきがもっとも詩的だと思つて感心し、彼はどんな色や香りの水虫になったのだろうと思つたことを思い出します。ギリシア神話はこのように人間の内部に潜んでいて人間を突き動かす様々な基本的精神衝動を物語化しているの、近代になつても人間理解に役立つのです。

神話は昔にただ一回起こったことを語るものですが、昔話は「言ひか」として語り方によって変わります。例えば「シンドレラ」という名前が固有の語ではなく、各国に同じように伝承されている物語の主人公がいて日本では「かみゆり」といいます。虚構がわかれていた娘が最後には幸せになるという同じような経験をしていることがわかります。

昔話には物語の終わりが「めでたしめでたし」と結ばれる幸せなものも多く見られますが、グリム兄弟の収集した昔話には残酷だと思われるものも含まれていることは覚えておいてよいでしょう。こと人間に関する限り、いつも出来事がめでたく終わるとは限らず、恐ろしい結末にいたるものもまたあることですから、昔から人間はそういう認識をちゃんと持っている、物語を作り、語り伝えたのでした。

伝説は、現実世界における「い」な事柄や場所と結びつけて語られる物語です。語るのはその物語を聞き者たちに実際に起こったこととして信じてもらうために語ります。y 現実のどこか特定の場所、特定の主人公が経験すること、語ることで、現実原則が守られる結果、往々にして悲しい結末を迎える物語になるという特徴があります。

現実には存在しないけれども、存在するべき幸福、実現しなくてはならない幸福の姿を具体的に思い描くためにこそ作られてきました。

ひとつの文学作品の価値はなによりもよきものでしょうか。「冒険の文学」の著者ボル・ルツァイクは「すべての物語には別の共通点がある。可視的なものの中が私たちに手招きし、実生活とは違う別の人生を提示し、さまざまな形態の可能性を示してくれるという点である。ただ物語に、さまざまな形態の可能性を示してくれるという点である。ただ物語に、その実現するというのは、虚構、つまりはフィクションの世界を構築すること、これに他なりません。

トルキンは、物語の作者についてこう述べています。

物語の作者は、人々の精神が入つていくことのできる別の世界を作る。その世界の内部では、彼の物語とは「本質」なのであり、物語られることとはその世界を支配する法則に従つて「x」。その世界の内部にいる間は、人は、それをそれとして信じているのだ。不信のなきまやいなや、その瞬間にじわじわはける。魔法が、というよりは技術が、失敗したのである。

言葉によって我々が生きている現実とは異なる第二の世界が構築され、その内部に人を引き込みとめて離さない力をもつとき、作者は準創造者として成功したといえます。それは彼が作る世界の大きさや、複雑さは

これらの「y」からさらに生まれたのが、妖精物語です。トルキンは魔法の充滿している典型的物語である妖精物語についてこう述べています。妖精物語とは、正しい英語の用法によれば、フェアリーやエルフについて「可憐さ」についての物語である。妖精はその国の住人である。この妖精の国には、エルフやフェアリーはかにもさまざまのものが存在している。ドワーフや魔法、トロール、竜などに加えて、海も、太陽も、月も、空も、そして地球も。そして地球上のすべてのものが、水に鳥、水に石、酒にパン、そして魔法にかけられている時は、私たちが人間でもが。

近代の所産である小説が生まれて以来、昔話や妖精物語などは軽蔑されるようになり「た」。大人は現実生活が決して幸せなものではないと信じきつていますが、単純で、しかもおおかたはめでたく終わる昔話のような物語は、現実に対するまじめさや正確な見方を欠いているように見えるからです。また一人前になつていない子どもなら満足するかもしれないが、世の中をよく知っている大人には所謂夢物語に過ぎないと思われしてしまうのです。

昔話や妖精物語などの伝承文学は子どもにだけ渡されましたが、子どもたちは喜んでそれを受け取りました。そのうちそういう子どもたちのために新しい物語の方法を編み出した作家たちがあらわれました。そのような物語は、我々のワゼンが語り伝えた数々の物語がそうであったように、

直接関係のないのです。またその世界のなかで読者が体験することの種類とも関係のないではないでしょうか。文学と呼ばれる芸術には様々なジャンルがあつて、それらはそれぞれ異なる機能をもっています。作者が十分にそのジャンルを要求する条件を言葉によって実現しているならば、読者はその世界に引込まれられて、新しい目で世界を見る喜びを与えられるのではないのでしょうか。

子どもの文学の素材や、その構造、表現がどれほど大人の目には単純だと見えても、読者とその世界のなかにとどめておくことが可能なら、それは「文学的価値」をもつていいのではないかと思います。登場人物の造形が納得する、興味をひきつける出来事を語る物語の筋が面白い、使われている言葉がすんなりと理解できるなど、実はよくできた作品ならこれはまさに文学だ、いやそうはいえない、など判断する前に、読者こそをなかに引き込んでしまふ力をもっているのです。そして、子どもたちのための文学は、子どもだけに楽しまれると思われようかなものがあることを脱して、大人にも楽しめる文学といえるものになります。時代が下つてつて物語の地位は下落してしまつたかに見えますが、だからといって小説のほうが上等で物語は下等であるなどとはいえないのです。

(猪熊兼子「大人に贈る子どもと大人の空」による)

指定校制推薦入学制度
総合型選抜入試

公募制推薦入試【前期】
【併願制】

国語

公募制推薦入試【後期】
【専願制】

一般入試【第1期】

一般入試【第2期】

(1) 二重傍線部①～⑤のカタカナの部分の漢字を漢字に直したとき、その漢字と同一漢字を用いるものをそれぞれ一つずつ選べ。

① トワイティ

ア ふらふらの中へ手紙を入れる。

イ 社会問題についてトワイティを論ずる。

ウ 売上高が目標にトワイティした。

エ 故人のついでに番組を放送する。

② ガイム

ア 計画のガイムを説明する。

イ 駅前でガイムと演説をする。

ウ 昔のことをかんガイム深げに語る。

エ 探検をどガイムして実行する。

③ ソゼン

ア 当事者の意思ソゼンが欠けている。

イ 最高裁でソゼンする。

ウ 植物の成長をソゼンする物質。

エ 名物の「ソゼン」を名乗る。

④ じゆバク

ア 江戸にバクを開く。

イ 自縛バクに陥る。

ウ 森林がバク化する。

エ 巨大な岩をバクはする。

⑤ ようチ

ア 入口に案内板をせつする。

イ 事故で列車がチえんずる。

ウ 川にサケのチきよを放流する。

エ 怪我がチには時間がかかる。

(2) 傍線部Bについて、物語にはどのような役割があると筆者は考えているか、その説明としてもっとも適切なものを選べ。

ア 現実の世界とは違って物語のなかの世界は想像力や発想力を駆使して作られた様々な「謎」に満ちているが、そうした謎をときあかすことをとおして、現実の世界で生きていく手がかりを得る。

イ 私たちが生きている現実の世界は様々な困難に満ちているが、そうした現実の世界から逃れてひまつぶしの時間を持つことによって、現実世界での苦しみや悲しみを忘れることができるようになる。

ウ 人間は自分が生きている世界のすべてを理解しているわけではなく、時には解決できない問題や現実に向き合わなければならぬが、物語という架空の世界に触れることによってそうした現実と折り合いをつけることができる。

エ 人間は子どもから大人まで、事実ではないことを事実らしく見せる物語を愛好するが、そのような物語を読むことによって、自己の成長を促し、耐えがたい現実を乗り越える力身につけることができる。

(3) 本文中のAに入れるのにもっとも適切なものを選べ。

ア 昔の人たちの様々な経験が現代まで語り継がれてきたものが物語なので。

イ 物語とは人間が何か一瞬間命あることについて話す、その表現の実体です。

ウ 後世に残る物語を作ることが、今を生きる人間に与えられた役割なので。

エ 自分自身の経験を言語化できれば、誰もが作家になることができるので。

(4) 傍線部Bについて、筆者は伝承文学をどのようなものと考えているか、その説明としてもっとも適切なものを選べ。

ア 神話は、遠い昔にただ一回起こった出来事を真実として語る物語であり、昔話は、「昔むかしあるところ」という語り口が象徴するように、ある時ある人物の物語として曖昧に語られるものであり、伝説は逆に特定の場所・特定の主人公が経験することが語られるものである。

イ 神話は、世界がどのように創造されたか、その世界にはどのような神々がいたかを語っており、なかでもギリシア神話は、現代の我々の人生の教訓ともなる啓蒙的な物語であるが、昔話は、残酷な結末を迎えることもあり、伝説も現実が起こった主人公の悲しい経験が語られることが多い。

ウ 神話では、人間が神々と関わりを持ちつつ生きていくが、昔話では、「シンデレラ」のように最後には幸せになる話であり、残酷な結末を迎えるものであり、人間は自分の力のみで行動しており、伝説では、地上のすべてのものとともに、人間は魔法にかけられた存在として語られている。

エ 神話は、世界がどのように創造されたかを語る物語であり、その文化にも存在するが、昔話は、「シンデレラ」やグリム兄弟の収集した物語のように、西洋を中心に語られてきたものであり、伝説も、フェアリーやエルフ、ドワーフや魔法、トロールなどが登場する西洋の物語を指している。

(6) 本文中のxに入る語句の組み合わせとして、もっとも適切なものを選べ。

ア また つまり だから

イ 一方 むしろ だから

ウ また むしろ しかし

エ 一方 つまり しかし

(5) 傍線部Cについて、フロイトが精神分析を行なうなかでギリシア神話を用いたのはなぜか、その理由としてもっとも適切なものを選べ。

ア 神話ほどの文化のなかにも存在しているが、ギリシア神話によく知られた物語が多く内容を理解しやすいため、そうした物語を読んだ人々の心の内面を探るのに都合のよいものだったから。

イ ギリシア神話はアーカイブスや青少年ナレッジスのように、神々ではなく存在した人物に関わる実際の出来事を物語化したため、現実の人間理解にも役立つものだったから。

ウ 伝承文学の一種であるギリシア神話には、エディプスコンプレックスやナルシズムのように、人間の行動に影響を及ぼす様々な深層心理が物語という形で描き出されているから。

エ ギリシア神話は他の神話とは違ってただ単に神々と人間との関係を描くのではなく、エディプスコンプレックスやナルシズムなどのように人間の精神衝動を分析したうえで、それを物語化したものだから。

(8) 本文中のi・iiに入る語句の組み合わせとして、もっとも適切なものを選べ。

ア 抽象的 現実

イ 具体的 現実

ウ 抽象的 伝承

エ 具体的 伝承

(9) 傍線部Dの意味として、もっとも適切なものを選べ。

ア 必ず

イ ししば

ウ 時には

エ というわけか

指定校制推薦入学制度
総合型選抜入試

公募制推薦入試〔前期〕
〔併願制〕・〔専願制〕

国語

公募制推薦入試〔後期〕
〔専願制〕

※国語（11月15日実施）の問題は、
27ページから始まります。

(0) 傍線部について、小説が生まれて以来、昔話などのように受け取られてきたのか、その説明としてもっとも適切なものを選びなさい。

ア 昔話のようにおおかたは単純で幸せな結末を迎える物語について、子どもたちはそうしたものであっても喜んで受け入れてきたが、大人たちはそれらを非現実的だと批判し、その価値を認めようという傾向があった。

イ 昔話は「めでたしめでたし」といった幸せな結末を迎えるものばかりではなく、現実的で恐ろしい結末にいたるものもあり、前者のような作品は子どもたちに、後者のような作品は大人たちに支持されることが多かった。

ウ 昔話は小説などと比べて内容が単純であるため、ほとんどの読者はそれが夢物語に過ぎないことをわかっているが、大人たちはそうした物語に批判的で、子どもたちがそれを読むことについても否定的であった。

エ 近代以前に作られた昔話は現在とは違つてわかりやすい内容のものが多いが、一人前でない子どもたちはそうしたものでも満足できたが、大人たちはそれらが作られた当時から内容が真実ではないことを見抜き、その非現実性を批判してきた。

(1) 本文の内容に合致するものを一つ選べ。

ア 一般に昔話のような子ども向けの文学は単純で価値がないとされてきたが、たとえ子ども向けの作品であったとしても、登場人物の造型や物語の展開がよく考えられ、理解しやすい言葉で書かれているような「よくできた作品」であるならば、それは小説などと同じように価値のある文学だと言つてよい。

イ 近代以降、子どもの文学の地位は下がり続けてきたが、そうした状況になったのは、子ども向けの文学が読者を現実とは異なる第二の世界に引き込む力が弱かったからであるため、その構造や表現を見直し物語の世界に読者を引き込む力を強くすることができれば、文学的価値を再び取り戻すことができる。

ウ 神話や伝説、昔話などから近代の所産である小説まで、文学と呼ばれる芸術には様々なジャンルがあるが、どのジャンルにもよくできた優れた作品とそうではない作品があるため、「小説は上等で物語は下等である」などといったように、ジャンルによって文学的価値を判断するのは意味のないことである。

エ フィクションとしての物語が中心である子どもの文学は無価値なものであるかのように言われることがあるが、物語の素材や構造、表現などがどのようなものであったとしても、その世界の中に読者を引き込み、とらまらせることができるものであれば、それは文学的価値がある作品だと言える。

2026年度

国語

(時間……………50分)
(配点……………100点)

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10と表示のある問いに対してウと解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄②にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 解答を始める前に、解答用紙の座席番号欄に座席番号を記入し、マークしなさい。また、氏名も書きなさい。解答科目欄には国語をマークしなさい(解答科目欄のマークを間違えた場合、0点となるのでよく確かめてマークすること)。

- ① 次の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。
- (1) 次の傍線部の言葉の意味としてもっとも適切なものをそれぞれ選べ。
- ① よしんはそれが事実でも、もう手遅れである。 1
- ア もちろん
イ 仮に
ウ さらに
エ したがって
- ② 彼らの証言はとどころに齟齬がある。 2
- ア 曖昧さ
イ 作り事
ウ 食い違い
エ こまかし
- (2) 「専心」の類義語としてもっとも適切なものを選びなさい。 3
- ア 没頭
イ 熟知
ウ 忘却
エ 苦慮
- (3) 「複雑」の対義語としてもっとも適切なものを選びなさい。 4
- ア 複雑
イ 曖昧
ウ 杜撰
エ 露骨
- (4) 「粗雑」と熟語の組み合わせが同じものを一つ選べ。 5
- ア 送迎
イ 慢性
ウ 爽快
エ 濁水

指定校制推薦入学制度
総合型選抜入試

公募制推薦入試【前期】
【専願制】

国語

公募制推薦入試【後期】
【専願制】

一般入試【第1期】

一般入試【第2期】

- (5) 次の言葉の意味としてもっとも適切なものをそれぞれ選べ。
- ① 口角を飛ばす [6]
 - ア 汚い言葉で相手を罵る。
 - イ 勢い強く議論する。
 - ウ でたらめなことをかり言う。
 - エ 突然のできごとにとっても驚く。

- ② 夢食う虫も好き好き [7]
- ア 人には誰でも得意なことと得意でないことがある。
 - イ 好きなことばかりしていても成功することはできない。
 - ウ 人の好みはさまざままで一概に言うことはできない。
 - エ 物事を極めるにはそれを好きになることが第一である。

- (6) 次の文中における四字熟語の()にあてはまる漢字としてもっとも適切なものを選べ。 [8]

- ア 旗
- イ 喜
- ウ 棄
- エ 鬼

【自暴自棄】()にならないように気をつける。

- (7) 次の四字熟語とその意味の組み合わせのうち、適切でないものを一つ選べ。 [9]
- ア 東奔西走 ——— あちこちをせわしなく走りまわる。
 - イ 周章狼狽 ——— 大いに慌てふためいて騒ぎだてる。
 - ウ 悠々自適 ——— 心の持ちままゆつたりと日々を過ごす。
 - エ 勇往邁進 ——— よくぞまぎすに勢いに任せて突き進む。
- (8) 次の文中における傍線部の「いる」と同じ意味・用法の「いる」を一つ選べ。 [10]
- 【集合時間から一時間も過ぎていた。
- ア 水槽の中に小さな魚が何匹もいる。
 - イ その料理はたくさん材料がいる。
 - ウ 社員に残業を強いることはできない。
 - エ 明け方には雪が積もっているだろう。

② 次の文章を読んで後の設問に答えよ。解答は、解答用紙にマークすること。

かつて多くの古代人は地球が平らで、海の果ては断崖絶壁でそこからは海が海のように下へ流れ落ちていると夢見ていた。まだ水平線に向こうまで航海できる巨大な船も飛行機もなく、小舟でせいぜい入江の外に出て魚を獲るくらいしかできない彼らにとって、そのような世界像を描くことはきわめて当然なことであった。しかし海を眺めながらそのような世界像を描くことができなかった彼らと、われわれ現代人とはいったい何がどう異なるのだろうか。

まず彼らも身近で起きている世界のさまざまな現象を観察しながら、何かしらの普遍的な法則を見いだそうとした。たとえば彼らが生活用水を貯めておくために作った大きな瓶は、川や泉から汲んできた水がいつも貯められていたのだが、雨が降るたびにその水は瓶から溢れ出し、地面へと流れ落ちていった。このとき彼らは、

「水が満たされた瓶にさらに水が注がれると、その瓶の外側へと水は溢れ出す」という法則を見いだしたはずである。現代人にとってはごく当たり前のこの現象も、人類の幼年期における彼らにとってはじつしん(①)で驚愕すべきものであったのだ。現代人からすればきわめて単純な法則ではあるが、しかし子供のような目で世界をはじめ眺めた彼らにとっては、この法則はひとつの偉大な発見であったに違いない。

大な瓶に大量の水が降り注いでも、水漏れが増えて陸地に海水が押し寄せることがないのは、この瓶の外側、すなわちあの水平線の向こう側へと溢れた海水がほとんど流れ落ちているからではないのか。ゆたかに海の果てはきつと瓶の縁と同じように切り立った断崖であり、だからこの海水は雨がどれほど降り積もっても陸地に押し寄せるとはいえないのだ。そしてその推測を裏付けるように、沖へと流されていった木は水が水平線の向こうに消え、二度と戻ってくることはないのか。と。

もちろんこれはあくまでも想像にすぎないのだが、しかし古代人の思考の流れは基本的にこのようなものだったろう。つまり彼らは身近な現象から見いだした法則を、こんどは世界全体へと拡大解釈していくことによって、その世界像を作り上げていったのである。

A お伽話のように笑うべきものもある。しかし、ではわれわれ現代人が手にしている世界像と比べてみると、いったい何がどう違うのだろうか。

たしかにわれわれは海の果てが断崖絶壁などとは思われない。われわれは地球が丸いことを知っており、その姿は遠く上空のたいきく外からも確認している。そしてこの丸い地球が自転しながら太陽の周りを回り、さらに地球以外にもたくさんの惑星が太陽を周回していることも知っている。そしてこのように惑星系が数千億個集まったのが銀河系であり、さらに宇宙にはこの銀河系のような星の集団が無数にあるのだということも知っている。

しかしそのような知識を持ちながらも、われわれはこの宇宙の果てまでを完全に見過ごしているわけではない。とりあえず科学はいまの(この)宇宙の大きさを七〇〇億光年以内で見積もっているらしいが、これだけでも(

まで真実が疑わしい。何故ならば、いかに高性能な望遠鏡といえどもその視野が極く距離には限界があるし、そのような望遠鏡も含め他のさまざまな、かつ不十分な測定方法を幾つも積み足して見積もられるのが、先ほどの宇宙の大きさという数字だからである。ましてわれわれが宇宙船に乗って宇宙の果てまで(この場合「果て」という概念が通ずるかも疑問だが)航行して、その真偽を確認することなどまず不可能であろう。

その意味では、われわれ現代人もあの古代人が海岸から水平線を眺めてその世界像を思い描いていた状況とはあまり変わらないのである。われわれもこの地球上から望遠鏡によって得られた光や電波のデータを集め、それらをやりとりされこれまでに地球上で観察してきた現象から得られた幾つもの法則が、この宇宙全体にも普く通用するものと「前提提のもの」として当てはめてみて、その結果から導きだされた宇宙像をとりあえず「正しいもの」として使っているにすぎないのである。つまり水平線を眺めていた古代人の眼が、多少先まで見通すことのできる望遠鏡に成り代わっただけであり、瓶から溢れる水を見て得られた法則が、この地球上におけるさまざまな実験によって得られた最新物理法則に取って代わられただけのことなのである。と。

つまりわれわれがいま手にしているこのビッグバンという世界像も、科学者が現代の物理法則にさまざまな宇宙からの観測データを当てはめて、宇宙全体の姿というものを拡大解釈していったとき、この解釈が最終的にまう地点(時間)を宇宙の始まりとしていかにすぎない。古代人がその視野の途絶える地点、すなわち水平線をこの世界の果てと考えたのと同様に、現代の科学者もわれわれの経験と法則が敵対する地点をこの世界の始点、すなわちビッグバンとしていかにすぎないのである。古代人の視野の限界、

ゆえに古代人が考えていた「海の果ては断崖絶壁である(クマ)」、という世界像は、その時代においては世界を合理的に説明できるものもなかった。その真理はあくまで、しかしその後人類が獲得していき知識と経験からその真理はさまざまな不具合を生じてきた。その不具合を合理的に説明できる新たな法則と世界像が、次の真理の座につくのである。

科学史家のトーマス・クーンは次のように語る。

たとえば、アリストテレスの力学とか、プロジストン(燃素説)にもとづく化学とか、燃素説にもとづく熱力学を深く研究すればほど、かつて流行した自然観が、現在のものより非科学的で人間の感得した産物であるとして片付けられるものではない、と感じるようになる。こういう時代連れの考えを神話と呼ぶなら、その神話は現在の科学的知識に導くものと同じ方法でつくられ、同種の存在理由をもつのである。(トーマス・クーン「科学革命の構図」中田茂樹、みすず書房)

x この現代のビッグバン理論も、地球上に生存する人類が現時点で収集できる限りの経験、望遠鏡や宇宙観測装置などによって集めたデータを、これまた現時点で人類が手にしている物理法則に当てはめてみて、不具合がないように構築された「人間にとっての」一つの宇宙像にすぎない。しかしそれはあくまでもその宇宙像を反証するデータや法則が現れるまでのものであり、いずれは新たな理論(仮説)に取って代わられるのである。

y ニュートンの三天法則も、ある一定の経験世界では十分に真理である。ニュートンが発見した万有引力でもさまざまな星の運動は説明でき

水平線が、現代人にとっての視野の限界、すなわちビッグバンなのである。だが科学者が次のように反論するかもしれない。しかしこれら最新の物理法則や世界像が正しいからこそ、現代人類は月へと人間を送り届け、はるか彼方の惑星まで探査機を飛ばし、再び地球まで帰還させることができるのではないのか。

たしかにその通りである。しかしそれら科学的知識を生かしてのさまざまな技術的成長というものは、たとえば古代人が月の満ち欠けから潮の満ち引きを予測し、舟をうまうま海へと漕ぎ出したり、太陽の運行を観察することによって暦を作り、農作業時期などのシムンとしていたのと同じことなのである。これら古代人の知識はどれもみな「地球が平らで、その果ては断崖絶壁、そして太陽は地球を中心と天空を回っている」という誤った世界像のもとで得られたものにとすぎない。しかしそのような誤った世界像の中で得られた知識であっても、彼らはそれを技術などに応用し、日々の生活に十分役立てていたのである。

けっきょく科学的真理は時代とともに変遷するのだ。何故ならば、科学における真理とは要するにわれわれの経験の蓄積から導きだされた法則にすぎないからである。そこではつねにわれわれの経験が前提とされている。たとえそれが数学のように純粋に「i」と思われるような真理も、必ず何かしらの経験に依拠せざるを得ない。たとえは数理論の大前提であるかのように思える十進法も、たまたまわれわれの指が十本だったからにすぎない。われわれの指が生まれつき八本であったら、八進法が数理論の大前提となっていたら。また、たとえば素粒子の観測機器や天望遠鏡が(高性能になればなるほど、そこから得られる情報(経験)量は増大していく。

るし、日蝕や月蝕の予想はもろろん、この引力から予言されていた海王星のちに発見されるなど、宇宙の諸現象見事に説明するものであった。しかしニュートンの力学では、たとえば水星の[2]の運動や重力力による光の湾曲などが説明できなかったが、次のアインシュタインの相対性理論では説明できるようになったのである。[2]そのアインシュタインの相対性理論でもまだ解けない問題が幾つもあって、それらはわれわれがさらに経験を収集し、新たな法則を発見することによって解決されることかもしれないのである。

しかしそれはニュートンの理論よりもアインシュタインの理論のほうが、さらには将来発見される新しい理論のほうが正しいということではなく、現象をより精密に説明できるという[3]の問題にすぎないのである。

「ニュートンは著『プリンシピア(自然科学の数学的的的原理)』で次のように語っている。

実験哲学にあつては、現象から[4]によって推論された命題は、どのような反対の仮説によつて妨げられるべきではなく、他の現象が現われ、さらに精確されようが、それとも除外されねばならぬままに、真実のもの、あるいはきわめて真実に近いものと、みなされねばならぬ。規則IV。「ニュートン」自然科学の数学的的的原理」河辺六男訳、中公パックス世界の名著31「ニュートン」(

ニュートン自身も、すでに科学的真理というものがつねに時代の経験に制約された仮のものであり、将来新たな経験と法則が現ればその真理はその座を譲らざるを得ないと考えていた。そしてまた時間や空間、質量、エ

エネルギーといった科学の世界でよく使われる概念も、人間が考えた人間的な概念を切り取り解釈するために都合のよい概念であって、自然の中にはもともとそのようなものは何も存在しないのである。

科学は自然の実態を探るとはいうものの、けっきょく広い意味での人間の利益に役立つように見た自然の姿が、すなわち科学の見た自然の実態なのである。

〔中谷宇吉郎「科学の方法」岩波新書〕

われわれは古代人の海の間ごうは断崖絶壁だという世界観を笑い捨てるが、もし二千年後も人類が存続して現代を振り返ったとき、このビッグバン理論を笑い捨てるかもしれないのである。

〔三好由紀彦「哲学のメガネ」による〕

(1) 二重傍線部①～⑤のカタカナの部分に漢字に直したとき、その漢字と同じ漢字を用いるものをそれぞれ一つずつ選べ。

① しんせん 11

- ア センめん所の音読をする。
- イ 裁断所が無罪せんこくを言い渡す。
- ウ 人々にせんれつな印象を与える。
- エ この服は化学せんいでできている。

② たいきけん 12

- ア 新築ぶつけんの下見をする。
- イ 大名に特産品をけんじようする。
- ウ 鉄筋でけんごな建物を造る。
- エ 首都けんの人口が増加する。

③ しじん 13

- ア 週刊シの特集記事を読む。
- イ オーストララのシキ者を務める。
- ウ 娯楽シセツを建設する。
- エ 多くの生き物をシイクする。

(4) キドウ 14

- ア チームの必勝をキがんする。
- イ 計画がキじようの空論に終わる。
- ウ じようキを逸した行動を批判する。
- エ 医師がキおう症について尋ねる。

(5) きノウ 15

- ア 受注した商品をノウひんする。
- イ 物事がうまく進まずノウする。
- ウ 世界各国のしめノウが集まる。
- エ ノウむ注意報が発令される。

(2) 傍線部 a について、古代人の世界像の特徴についての説明としてもっとも適切なものを選べ。 16

- ア 古代人のこの世界像は、瓶から水が溢れ出すという現象を実験によって把握し、そこから法則性を見いだした上で、その瓶と同じような形をしている海にそれを適用させたことによつて生み出されたものである。
- イ 古代人のこの世界像は、幼い頃から眼にしてみたさまざまな現象をもとにして見たことのない世界についての想像を膨らませるだけでなく、想像したことを自分たちの眼で実際に確かめた結果生み出されたものである。
- ウ 古代人のこの世界像は、古くから言い伝えられてきた法則を、実際に自分の眼で見たり、頭の中でのいりろと考へたり想像したりした事柄と結びつけて応用することによつて生み出されたものである。
- エ 古代人のこの世界像は、自分たちの身近なところで実際に起きた現象を観察することをおして見いだした法則を、似たようなものだが実際に見ることができないものに拡大解釈した結果生み出されたものである。

(4) 傍線部 b について、現在推測されている宇宙の大きさを真実だとすることについて筆者が疑問を持っているのはなぜか、その理由としてもっとも適切なものを選べ。 18

- ア 七八〇億光年以上という宇宙の大きさは、望遠鏡などの不十分な測定方法によつて集めた不正確なデータをもとにして、現代人が、海を眺めながら世界像を思い描いていた古代人のように想像力を働かせて導き出した大まかな数字でしかないから。
- イ 地球は丸いなどといった宇宙空間から実際に確認できることとは違って、七八〇億光年以上という宇宙の大きさは現代人が自分の眼で真偽を確認したのではなく、とりあえず「正しいもの」でしかない法則やデータをもとにした推測に過ぎないから。
- ウ 現代人は古代人よりは宇宙に関する豊富な知識や高い技術を持っているが、それらは人類が宇宙船に乗つて宇宙の果てまで行くことができるほど高度ではないため、そのような力しか持たない現代人が考える宇宙の大きさも誤っている可能性があるから。
- エ 宇宙の果てに限らず何らかの距離や大きさを知らないとすることが必要であつて、陸地から海を眺めているだけであつた古代人のように地球から宇宙の果てを望遠鏡で見ているだけでは正しい数字を導き出すことはできないから。

(3) 本文中の「A」に入れるにもっとも適切なものを選べ。 17

- ア そうして作り上げられた世界像は、現代の世界像の基礎となつておるとは思えないほど、初歩的な誤りが多すぎる
- イ そうした世界像はあまりにもばかばかしくて、現代人のもとより古代人ですら実際に信じていたかどうかとも疑わしい
- ウ そうした世界像は、いわば現代人の世界像は、現代人のわれわれからすればとんでもない誤りである
- エ そうして古代人が作り上げた世界像は、いったいどうしたらそんなことになつてしまふのか現代人には想像できないものである

(5) 傍線部 c の意味として、もっとも適切なものを選べ。 19

- ア ある程度通用する
- イ たぶん通用する
- ウ 広く一般に通用する
- エ 絶対に通用する

指定校制推薦入学制度
総合型選抜入試

公募制推薦入試【前期】
[専願制]

国語

公募制推薦入試【後期】
[専願制]

一般入試【第1期】

一般入試【第2期】

(6) 傍線部dについて、この反論について筆者はどのように考えているか、その説明としてもっとも適切なものを選べ。[20]

ア 古代人は生活に役立つ知識や技術を持っていたにもかかわらずその世界像は誤っていたのと同じように、現代人が人間を月へと送り届けたり小惑星まで探査機を飛ばしたりすることができるといって、現代の最新の物理法則や世界像が絶対に正しいとはいえない。

イ 古代人の日々の生活とは違って、人間を月へと送り届けたり小惑星まで探査機を飛ばしたりするなどといったことを実現するには正しい知識や高度な技術が必要のため、現代の最新の物理法則や現代の世界像についても科学者が言うほどではないものの、ほぼ正しいと思われる。

ウ 海の果てや宇宙の果てがどうなっているのかといった世界像その時代の人が利用している知識や技術とは直接な関係はないため、現代人の知識や技術がどんなに優れたものであったとしても、そのことが現代の世界像が正しいことの理由にはならない。

エ 潮位の変化や太陽の運行などに関する古代人の知識が正しかったと同様、人間を月へ送り届けたり小惑星まで探査機を飛ばしたりするための知識や法則は正しいが、正しい知識を持っていたにもかかわらず古代人の世界像が誤っていたことを考えると、現代の世界像についても本当に正しいものかどうかわからない。

(9) 本文中の「x」「y」「z」に入る語句の組み合わせとして、もっとも適切なものを選べ。[23]

- x ア とはいえ たしかに
- y イ ゆえに ただし
- z ウ とはいえ たかし

(7) 本文中の「i」「ii」に入る語句の組み合わせとして、もっとも適切なものを選べ。[21]

- i ア 演繹的 便宜性
- ii イ 恣意的 絶対性
- ウ 演繹的 絶対性
- エ 恣意的 便宜性

(8) 本文中の「B」に入れるのにもっとも適切なものを選べ。[22]

- A ただし情報というものは多ければよいというわけではないのである
- B そのため人間は常に膨大な情報の取捨選択に迫られているのである
- C しかしその増大の終着点どこにあるかは誰にもわからないのである
- D だが情報が増えれば増えるほど真理は見えなくなってしまうのである

(10) 傍線部eについて、筆者はニュートンの言葉を引用してどのようなことを言おうとしているのか、その説明としてもっとも適切なものを選べ。[24]

A ニュートンの三大法則やアインシュタインの相対性理論のような科学的真理というものがある時代においては真実あるいは真実に近いものであるが、それが永遠に続くわけではない、時代とともに変化したり別の理論に代わったりする可能性があるということ。

イ ニュートンやアインシュタインの理論だけでなく科学的真理と呼ばれるものはどれも真実ではなく、多かれ少なかれ誤っているものであるため、そうしたものを無批判に信じるべきではないということ。

ウ アリストテレスの力学のような古い理論だけでなく、ニュートンやアインシュタインなどの比較的新しい理論にも間違いや解けない問題がいくつもあるといったことからわかるように、世の中には科学的真理などといったものは存在しないということ。

エ 科学的な理論の中にはニュートンやアインシュタインの理論のような真実や真実に近いものがある一方、真実ではないものや時代によって変わっていくものなどもあるため、それが科学的真理でそれがそうでないかを見極めるのは簡単なことではないということ。

(11) 本文の内容に合致するものを一つ選べ。[25]

A 地球の姿形に関する古代人の世界像は全くの誤りであって、現代人はそうした世界像しか持てなかった古代人を軽蔑しているが、世界像というものは科学的真理とは違って時代とともに少しずつ変化していくものにも過ぎないため、ビッグバンという現代の世界像も数千年後の人類から軽蔑される可能性が高い。

イ 地球は平らで海の向こうは断崖絶壁などといった古代人の世界像は現代人から見ると荒唐無稽なものであるが、古代人の世界像も現代人のビッグバンという世界像もそれぞれの時代に獲得された経験や法則を当てはめて構築されたものでないため、現代人が正しいと考えている世界像もいずれ、古代人の世界像と同様、誤ったものとなる可能性がある。

ウ ある時代の世界像というものは、その時代に獲得することのできる知識や経験とそこから導きだされた最新の法則によって生み出されるものであるため、私たちは自分が生きている時代の世界像の正しさを信じて疑うことはないが、人間の能力には限界があり、どんな法則にも何らかの間違いがあることから、現代の世界像も将来、別の世界像に取って代わられていると考えられる。

エ 古代人の世界像が誤っていたことは確かであるが、自分たちの経験をもとにして法則を見いだし、それを拡大解釈して世界像を構築するという方法は古代人が確立したものであって、現代の世界像もその当時から積み重ねられてきた経験や知識

や法則を利用して作られたものであることから、古代人の世界像が誤っていたからといってそれをばかにするのは間違いである。

※国語(11月16日実施)の問題は、24ページから始まります。